

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 平成 13 年 11 月調査結果 —

(平成 13 年 12 月 3 日)

○調査期間：平成 13 年 11 月 19 日～26 日

○調査対象：全国の 396 商工会議所が 2622 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 387 製造業 635 卸売業 237
小売業 753 サービス業 610

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 03-3283-7844 / 7836

E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>) でもご覧になれます。

【平成13年11月調査結果のポイント】

製造業の業況悪化強まる。深刻な先行き不安

○ 11月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、製造業については、マイナス幅が前月水準より拡大して平成10年11月以来、3年ぶりの低水準となったが、他の4業種でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したことから、前月水準（▲59.0）よりマイナス幅が1.7ポイント縮小して▲57.3となった。これは、第1次補正予算の成立（16日）に引き続き、第2次補正予算が編成されることになったために、公共工事追加発注等への期待が高まったことや、低気温化により冬物季節商品の売れ行きが好調であったことなどが主な要因。しかしながら、先行きに対する深刻な不安感を払拭するほどの材料は見当たらず、昨年10月以降続いている業況の悪化傾向は変わらない。依然として、地域経済や中小企業の足元の景況感は、厳しい状況にある。

建設業では、「補正予算成立で若干の公共工事追加発注」（一般工事）、「万博、空港関係の工事動向に注視」（建築工事）、「公共工事の発注あり。ようやく去年並みになった」（土木工事）など、補正予算等による公共工事追加発注等に関するコメントも多く寄せられた。しかし、引き続き、「民間工事、公共工事の仕事量が減少。採算面でも大変厳しい」（一般工事）、「設備工事は増えているが単価が下落しているため採算が取れない」（電気工事）、といった声は多く、また、将来的に、「公共工事に明るい見通しが無い」（建築工事）等の不安の声も多く寄せられている。

製造業では、引き続き、発注減、受注単価低下、外国製品との競争激化、取引先の海外調達加速等の厳しい声が多く寄せられている。具体的には、「リストラを進めているが、稼働率が60~70%程度で非常に厳しい」（鉄素形材製造）、「受注減、販売価格低下が強まってきた」（自動車・同附属品製造）、「中国をはじめ海外からの輸入、海外への発注が増加しているため、最悪の業況」（鉄素形材製造）、「長期にわたる不況により資金繰り面で大変苦慮」（鉄素形材製造）、「年末を控え、ボーナスを支払うことができるのか、中小企業経営者にとって仕事の確保に必死」（自動車・同附属品製造）、「発注先の在庫調整から受注量が減少。年明けからの単価引き下げ要求もある」（一般産業用機械製造）といった声が寄せられている。

卸売業では、前月の大幅なマイナス幅拡大の反動のほか、「売上・採算とも多少増加傾向。年末にかけて期待」（総合卸）、「台風の影響なく野菜・果実とも豊作。味が良く今後の消費増加に期待」（農畜産水産物卸）など、今後への期待を込めたコメントも寄せられている。

小売業では、「冬物の動きは衣料品、雑貨ともに順調。狂牛病の影響も薄れつつある」（百貨店）など、低気温化により、季節商品（冬物コート、暖房関連商品等）の出足が好調との指摘のほか、「観光客が増加し、土産物店などが好調」（商店街）、「クリスマス・年末商戦もあり売上アップに期待」（百貨店）、「歳末ギフトの出足が好調」（百貨店）といった声も寄せられている。ただし、狂牛病問題関連など、先行きの懸念も少なからず示されている。

サービス業では、飲食・旅館については、「海外旅行を控えている分、国内旅行が増加」（食堂・レストラン、旅館）といった声があるものの、「相変わらず客単価低下」（旅館）、「狂牛病の影響で売上減少」（食堂、レストラン）、「忘年会、新年会の予約が今年に入ってこない」（一般飲食店）、「テロによる観光客の減少」（旅館）などの声も多く寄せられている。また、「正規社員から外注が増加」（人材派遣）、「電子政府のモデルケースが出てきた」（ソフトウェア）といった声もある。

売上面では、製造業を除く4業種でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したことから、全業種合計の売上DIはマイナス幅が2.4ポイント縮小して▲49.4となった。採算面でも、製造業を除く4業種でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したことから、全業種合計の採算DIはマイナス幅が2.3ポイント縮小して▲50.

8となった。

- 向こう3ヵ月(12月~2月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が▲50.4と、昨年同時期の先行き見通し(▲32.8)に比べて極めて厳しい見方となっている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、補正予算による公共工事の追加発注、年末年始に向けての個人消費の動向、狂牛病問題、などについての関心が高い。

【業況についての判断】

○ 全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、製造業を除く4業種でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したことから、前月水準(▲59.0)よりマイナス幅が1.7ポイント縮小して▲57.3となった。しかしながら、先行きに対する深刻な不安感を払拭するほどの材料は見当たらず、昨年10月以降続いている業況の悪化傾向は変わらない。依然として、地域経済や中小企業の足元の景況感は、厳しい状況にある。

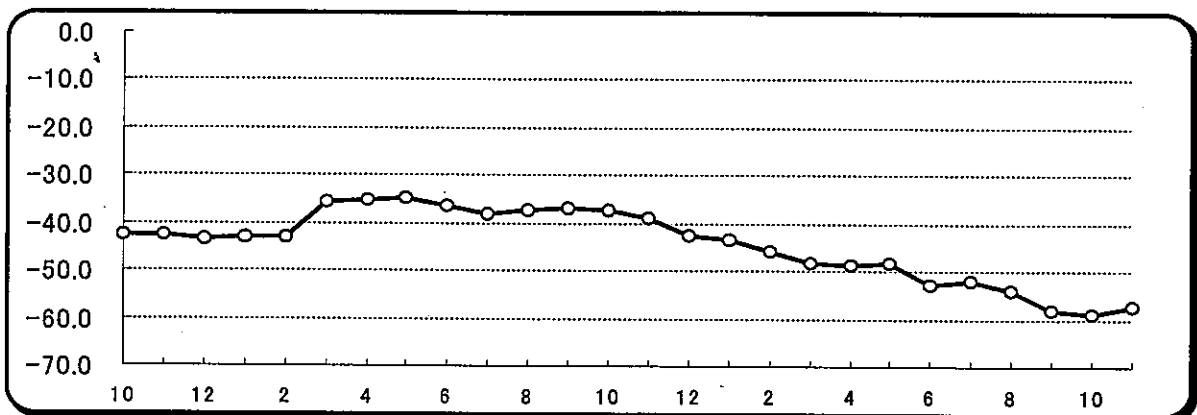
○ 向こう3ヵ月(12月~2月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が▲50.4と、昨年同時期の先行き見通し(▲32.8)に比べて極めて厳しい見方となっている。

業況DI(前年同月比)の推移

	13年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	▲53.0	▲52.0	▲54.2	▲58.2	▲59.0	▲57.3	▲50.4 (▲32.8)
建設	▲62.2	▲60.6	▲60.6	▲64.8	▲69.5	▲66.3	▲64.1 (▲49.0)
製造	▲55.9	▲59.4	▲57.8	▲61.5	▲62.6	▲64.9	▲57.5 (▲23.9)
卸売	▲53.9	▲57.1	▲63.2	▲62.6	▲70.6	▲66.5	▲50.3 (▲36.2)
小売	▲49.9	▲44.2	▲51.1	▲53.0	▲53.0	▲50.1	▲43.7 (▲37.4)
サービス	▲46.3	▲45.2	▲46.3	▲54.5	▲50.5	▲47.3	▲40.8 (▲24.3)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3ヵ月の先行き見通しDI
()内は昨年11月の先行き見通しDI<以下同じ>

《業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



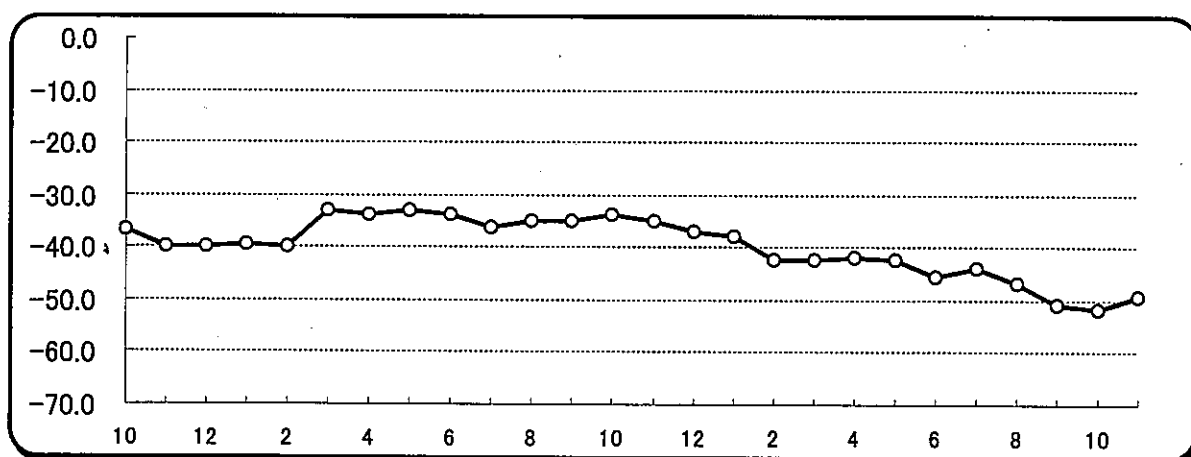
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、製造業を除く4業種でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したことから、全業種合計の売上DIはマイナス幅が2.4ポイント縮小して▲49.4となった。
- 向こう3ヵ月（12月～2月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲42.7と、昨年同時期の先行き見通し（▲26.2）に比べて非常に厳しい見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	13年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	▲45.6	▲44.1	▲47.0	▲50.8	▲51.8	▲49.4	▲42.7 (▲26.2)
建設	▲56.1	▲54.6	▲53.8	▲60.1	▲60.7	▲60.4	▲58.6 (▲43.6)
製造	▲46.7	▲49.7	▲50.0	▲50.9	▲53.9	▲54.6	▲50.7 (▲16.6)
卸売	▲47.9	▲56.5	▲56.1	▲55.1	▲61.4	▲59.4	▲41.3 (▲28.2)
小売	▲42.6	▲34.5	▲45.6	▲45.9	▲45.9	▲42.9	▲34.2 (▲30.9)
サービス	▲39.4	▲37.4	▲37.3	▲48.4	▲46.5	▲39.7	▲33.3 (▲17.6)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



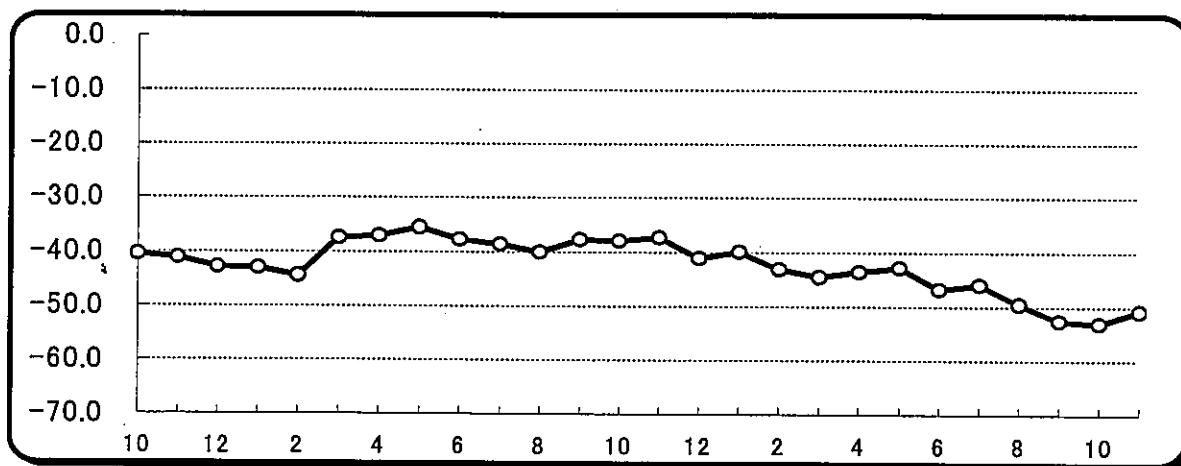
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、製造業を除く4業種でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したことから、全業種合計の採算D Iはマイナス幅が2.3ポイント縮小して▲50.8となった。
- 向こう3ヵ月(12月~2月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲44.9と、昨年同時期の先行き見通し(▲30.6)に比べて厳しい見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	13年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	▲46.8	▲46.0	▲49.5	▲52.6	▲53.1	▲50.8	▲44.9 (▲30.6)
建設	▲61.1	▲58.9	▲59.9	▲63.2	▲64.2	▲63.4	▲60.1 (▲45.0)
製造	▲50.5	▲55.0	▲56.1	▲59.4	▲59.5	▲59.6	▲52.0 (▲26.7)
卸売	▲49.1	▲52.2	▲56.1	▲52.4	▲58.2	▲51.6	▲40.6 (▲23.9)
小売	▲39.1	▲34.1	▲43.7	▲43.0	▲43.5	▲40.8	▲36.3 (▲33.8)
サービス	▲41.2	▲39.5	▲39.8	▲49.6	▲47.5	▲44.0	▲38.2 (▲23.3)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

	13年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	▲ 32.4	▲ 32.6	▲ 32.5	▲ 37.3	▲ 37.1	▲ 38.6	▲ 35.5 (▲ 22.3)
建設	▲ 43.2	▲ 40.9	▲ 44.1	▲ 42.8	▲ 43.2	▲ 47.7	▲ 46.5 (▲ 31.7)
製造	▲ 36.6	▲ 37.5	▲ 35.4	▲ 41.9	▲ 43.4	▲ 44.8	▲ 43.1 (▲ 18.7)
卸売	▲ 27.8	▲ 28.5	▲ 32.5	▲ 37.5	▲ 34.4	▲ 37.4	▲ 32.8 (▲ 19.3)
小売	▲ 26.8	▲ 27.3	▲ 26.3	▲ 30.2	▲ 28.9	▲ 29.1	▲ 27.1 (▲ 22.7)
サービス	▲ 26.6	▲ 27.8	▲ 27.0	▲ 35.1	▲ 34.3	▲ 35.1	▲ 30.4 (▲ 20.6)

$$D I = (\text{好転の回答割合}) - (\text{悪化の回答割合})$$

【前年同月比D I】全業種で悪化超感が強まる。全業種で強まるのは、今年3月以来8ヵ月ぶり。

【先行き見通しD I】全業種で、昨年同時期に比べ悪化超感が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	13年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	1.5	2.0	3.7	4.2	2.1	4.9	0.9 (▲ 3.7)
建設	6.5	3.3	7.0	2.2	5.0	6.3	3.0 (▲ 4.5)
製造	▲ 4.3	▲ 4.0	▲ 2.7	▲ 0.5	▲ 4.8	0.7	▲ 4.1 (▲ 8.9)
卸売	▲ 2.4	6.8	8.4	11.0	9.9	12.3	7.8 (6.7)
小売	7.7	9.7	12.9	10.0	7.7	7.9	6.1 (2.7)
サービス	▲ 2.1	▲ 3.9	▲ 4.8	0.8	▲ 2.0	1.6	▲ 4.3 (▲ 9.8)

$$D I = (\text{下落の回答割合}) - (\text{上昇の回答割合})$$

【前年同月比D I】全業種で下落超感が強まり、全産業合計のD I値は調査開始以来の最高値に。全業種で強まるのは、今年4月以来7ヵ月ぶり。

【先行き見通しD I】全業種で、昨年同時期に比べ下落超感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	13年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	▲ 15.7	▲ 15.6	▲ 14.4	▲ 15.7	▲ 17.2	▲ 16.8	▲ 16.8 (▲ 11.4)
建設	▲ 31.1	▲ 33.6	▲ 30.8	▲ 29.0	▲ 31.2	▲ 31.5	▲ 33.6 (▲ 22.7)
製造	▲ 21.8	▲ 22.8	▲ 21.9	▲ 22.9	▲ 25.6	▲ 26.2	▲ 23.7 (▲ 12.9)
卸売	▲ 19.4	▲ 19.3	▲ 18.1	▲ 16.3	▲ 20.3	▲ 18.7	▲ 16.5 (▲ 7.6)
小売	▲ 8.3	▲ 5.2	▲ 4.0	▲ 5.8	▲ 8.4	▲ 4.5	▲ 7.8 (▲ 8.1)
サービス	▲ 5.4	▲ 6.3	▲ 6.3	▲ 10.2	▲ 7.3	▲ 9.9	▲ 8.0 (▲ 6.9)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】卸売業および小売業で過剰超感が弱まる。

【先行き見通しD I】小売業を除く4業種で、昨年同時期に比べて過剰超感が強まる見通し。

【平成13年11月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

引き続き、先行きの業況に関する不透明感や先行きへの不安に関する指摘が多く寄せられている。建設業からは、「民間工事、公共工事の仕事量が減少。採算面でも大変厳しい」（榎原・一般工事）、「公共工事に明るい見通しが無い」（成田・建築工事）、「年末から来年の仕事量増加は見込めなく、予測不可能」（いわき・電気工事）などの声が寄せられている。製造業からは、「受注の減少、販売価格の低下が強まって来た。先行き不安が大きい」（高崎・自動車・同附属品製造）、「受注見通しについて3ヵ月程度しか見込めず、以降は不透明。受注額も全般に減少傾向」（福井・金属加工機械製造）、「これまでの不況にない先行き見通し不透明なものがある。中国をはじめ海外からの輸入、海外への発注が増加し、この影響で最悪の業況」（川口・鉄素形材製造）など、厳しい声が多く寄せられている。また、卸売業・小売業・サービス業からは、「業界に明るさは全くない。商品の価格低下傾向はますます激しくなっており、価格・量の両面から業容が縮小」（岡山・衣服・日用品卸）、「テロ・狂牛病等の問題で明るい材料が見当たらない」（宮崎・商店街）、「忘年会、新年会の予約が今年に入ってこない」（西宮・一般飲食店）などの声が寄せられている。

○ 冬物商品

今月は、各地から、気温の低下に伴い、各種季節商品の売上げについてのコメントが多く寄せられた。「11月に入り冷え込んできたことから、紳士・婦人とも冬物コートを中心に売上は好調」（横浜・百貨店）、「温度が前年より低いため衣料中心に売上良好」（佐野・百貨店）、「衣料、冬物コート、ジャンパーの動向が早い。暖房関連商品の動きも早い」（柏崎・百貨店）、「冬物・防寒着等で売上増加見込み」（観音寺・商店街）など、百貨店を中心に、売上好調との声が多かった。

○ 倒産・廃業

今月についても、長引く低迷や先行き見通しが厳しい影響から、倒産や廃業についてのコメントが多く寄せられた。「身近に倒産が発生し、業界内不安感が多々ある」（古河・建築工事）、「同業者の倒産が増加している」（小樽・水産食料品製造）、「小売店の倒産、廃業は増加傾向にあり、売掛債権の掛け倒れも増加している」（岡山・衣服・日用品卸）、「同業の繊維関係流通業において、売上規模の大きい企業の倒産が目立つ。このため、連鎖倒産が始まった。今後大型倒産は増加する」（上越・繊維品卸）などの指摘が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
13年 9月	先行き不透明感	倒産・廃業	
13年10月	先行き不透明感	狂牛病問題	倒産・廃業
13年11月	先行き不透明感	冬物商品	倒産・廃業

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上DIは前月まで2ヵ月連続、採算DIは3ヵ月連続でマイナス幅が拡大したが、今月はいずれも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「補正予算成立で若干の公共工事追加発注」（一般工事）、「万博、空港関係の工事動向に注視」（建築工事）、「公共工事の発注あり。ようやく去年並みになった」（土木工事）など、補正予算等による公共工事追加発注等に関するコメントも多く寄せられた。しかし、引き続き、「民間工事、公共工事の仕事量が減少。採算面でも大変厳しい」（一般工事）、「設備工事は増えているが単価が下落しているため採算が取れない」（電気工事）、といった声は多く、また、将来的に、「公共工事に明るい見通しが無い」（建築工事）等の不安の声も多く寄せられている。
製 造	業況DIは9ヵ月連続してマイナス幅が拡大し、一旦縮小ののち、再び3ヵ月連続で拡大した。また、売上DIは6ヵ月連続、採算DIは13ヵ月連続のマイナス幅拡大となっている。引き続き、発注減、受注単価低下、外国製品との競争激化、取引先の海外調達加速等の厳しい声が多く寄せられている。具体的には、「リストラを進めているが、稼働率が60～70%程度で非常に厳しい」（鉄素形材製造）、「受注減、販売価格低下が強まってきた」（自動車・同附属品製造）、「中国をはじめ海外からの輸入、海外への発注が増加しているため、最悪の業況」（鉄素形材製造）、「長期にわたる不況により資金繰り面で大変苦慮」（鉄素形材製造）、「年末を控え、ボーナスを支払うことができるのか、中小企業経営者にとって仕事の確保に必死」（自動車・同附属品製造）、「発注先の在庫調整から受注量が減少。年明けからの単価引き下げ要求もある」（一般産業用機械製造）といった声が寄せられている。
卸 売	業況・売上・採算DIとも、前月のマイナス幅大幅拡大から反転し、前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「売上・採算とも多少増加傾向。年末にかけて期待」（総合卸）、「台風の影響なく野菜・果実とも豊作。味が良く今後の消費増加に期待」（農畜産水産物卸）など、今後への期待を込めたコメントも寄せられている。
小 売	業況・売上・採算DIとも、前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「冬物の動きは衣料品、雑貨ともに順調。狂牛病の影響も薄れつつある」（百貨店）など、低気温化により、季節商品（冬物コート、暖房関連商品等）の出足が好調との指摘のほか、「観光客が増加し、土産物店などが好調」（商店街）、「クリスマス・年末商戦もあり売上アップに期待」（百貨店）、「歳末ギフトの出足が好調」（百貨店）といった声も寄せられている。ただし、狂牛病問題関連など、先行きの懸念も少なからず示されている。
サービス	業況・売上・採算DIとも、2ヵ月連続で前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「海外旅行を控えている分、国内旅行が増加」（食堂・レストラン、旅館）といった声があるものの、「相変わらず客単価低下」（旅館）、「狂牛病の影響で売上減少」（食堂、レストラン）、「忘年会、新年会の予約が今年に入ってこない」（一般飲食店）、「テロによる観光客の減少」（旅館）などの声も多く寄せられている。また、「正規社員から外注が増加」（人材派遣）、「電子政府のモデルケースが出てきた」（ソフトウェア）といった声もある。

(参考)

【ブロック別概況】

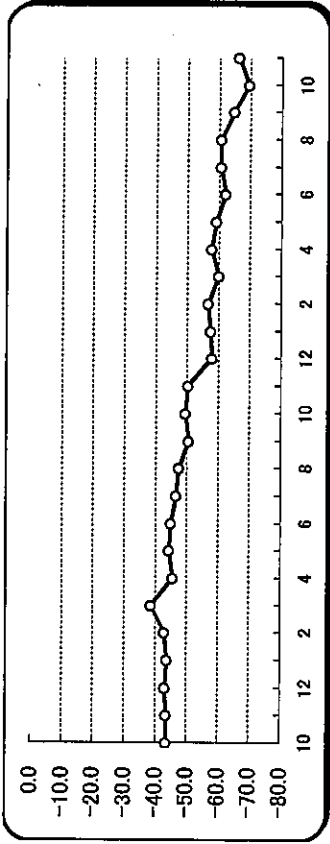
- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）を見ると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。また、北海道、東北、近畿の各ブロックで、前月水準に比べてマイナス幅が拡大し、他のブロックで縮小した。
- ブロック別の向こう3ヵ月（12月～2月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。また、全ブロックにおいて、昨年同時期の先行き見通しに比べて非常に厳しい見方となっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

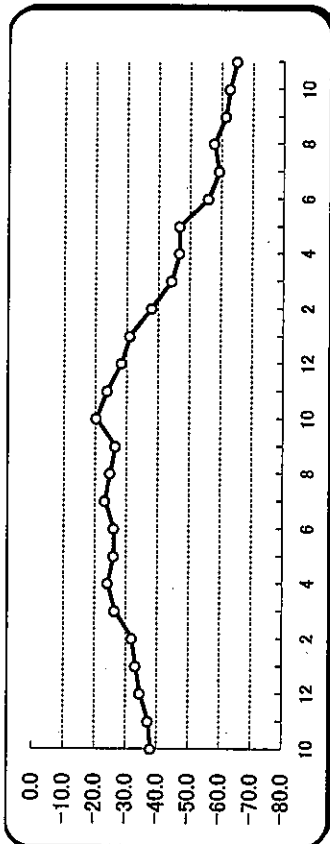
	13年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全 国	▲ 53.0	▲ 52.0	▲ 54.2	▲ 58.2	▲ 59.0	▲ 57.3	▲ 50.4 (▲ 32.8)
北 海 道	▲ 39.8	▲ 44.4	▲ 40.3	▲ 44.3	▲ 39.7	▲ 42.9	▲ 44.4 (▲ 32.5)
東 北	▲ 54.0	▲ 53.7	▲ 58.0	▲ 60.3	▲ 59.6	▲ 63.4	▲ 61.5 (▲ 32.5)
北陸信越	▲ 52.5	▲ 58.0	▲ 52.2	▲ 57.1	▲ 62.0	▲ 50.6	▲ 52.5 (▲ 37.4)
関 東	▲ 50.9	▲ 48.4	▲ 50.6	▲ 55.8	▲ 54.8	▲ 52.3	▲ 45.7 (▲ 25.5)
東 海	▲ 57.6	▲ 46.3	▲ 57.4	▲ 57.5	▲ 63.8	▲ 55.3	▲ 50.3 (▲ 30.9)
近 畿	▲ 58.4	▲ 56.8	▲ 64.1	▲ 61.8	▲ 65.8	▲ 68.7	▲ 55.7 (▲ 38.7)
中 国	▲ 58.8	▲ 54.6	▲ 57.5	▲ 63.8	▲ 64.1	▲ 62.7	▲ 51.3 (▲ 39.0)
四 国	▲ 54.9	▲ 63.7	▲ 57.9	▲ 69.2	▲ 65.2	▲ 63.5	▲ 47.0 (▲ 31.9)
九 州	▲ 48.7	▲ 48.2	▲ 49.7	▲ 56.1	▲ 58.6	▲ 58.0	▲ 48.5 (▲ 34.8)

業況DI (前年同月比) の推移 (全国)

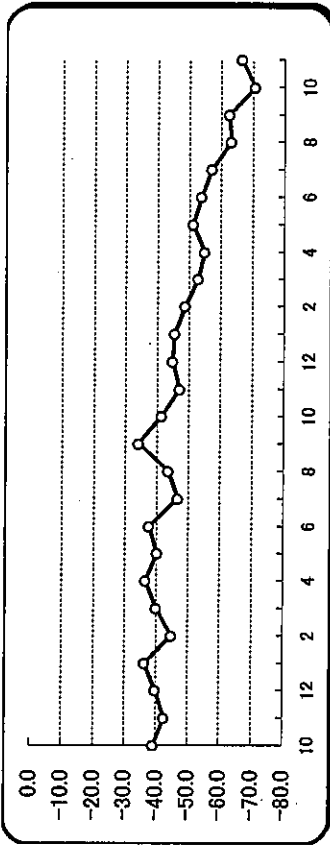
建設業



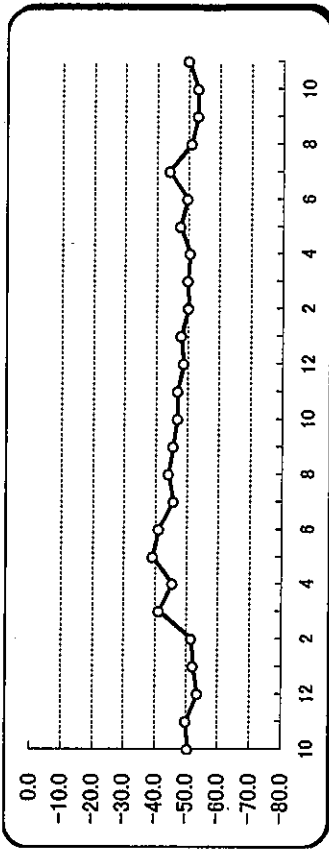
製造業



卸売業



小売業



サービス業

